



校長室だより（令和6年度）

第40回卒業式を行いました

写真は保健室前のお祝い飾りです。

3月3日（月）は第40回卒業式でした。

多くのご来賓の方とご家族の方においでいただき、卒業生たちが笑顔で本校を巣立っていきました。大切な卒業式を優しい言葉と温かい雰囲気（ふんいき）に満ちた時間にいただき、校長として感謝（かんむりよう）無量（むりやう）です。

壇上（だんじょう）で呼名（こめい）を聞く私にも、この日まで生徒たちと関わってきた3学年の先生方の思いが伝わってきました。

何より、返事とともに起立（きりつ）する生徒たちが実に晴れやかな顔を上げているのを見ていて、胸がいっぱいになりました。生徒会長Wさんの送辞（そうじ）も立派（りっぱ）でした。

そして答辞（こたじ）を読み上げるIさん。綾瀬西高校で過ごした日々への感謝の思いを、涙で声を詰（つ）まらせながら堂々（どうどう）と語ってくれました。素晴らしい言葉を本当にありがとう！ 卒業生（そつぎょうせい）のみなさんの未来（みらい）が幸せなものでありますよう、全ての職員（しやくしん）が祈（いの）っています。



3学年の先生方のすごいところは、卒業式（そつぎょうし）予行（よこう）の準備（じゆんび）にも余念（よねん）がなかったことです。

予行では、体育館（たいいくかん）で卒業式での流れを確認（かくにん）しますが、ひととおりが済みこれで終了（しゆうりょう）すると思いきや・・・先生方（せんせい）が「教員（きょういん）サプライズ」と称（なづ）した卒業生たちへのプレゼントを、用意（ようい）してくれていました。

O先生（せんせい）とI先生（せんせい）によるショートコント（！）に始まり3年間（さんねん）を振り返（ひりかへ）った「卒業ムービー」（そつぎょうムービー）の上映（じやうえい）、最後に歌（うた）のプレゼントで生徒（せいと）たちを盛り（も）り上げてくれました。歌（うた）の伴奏（ばんそう）はH先生（せんせい）によるピアノ演奏（えんそう）です。私は事前（じきん）に「H先生（せんせい）がものすごく練習（れんしゅう）している」という証言（しやうげん）を小耳（こみみ）にはさんでいましたが、さすがH先生（せんせい）、生徒（せいと）たちにどよめき（どよめき）が起こる巧（たく）みな演奏（えんそう）でした。

歌（うた）は「旅立ち（たびだち）の日に」です。事前（じきん）に私も合唱（ささ）に誘（さそ）ってもらっていたので、3学年団（さんがくねんだん）の一員（いちいん）として一緒に歌（うた）わせていただきました。



生徒（せいと）たちと先生方（せんせい）の笑顔（えんご）が忘れ（わす）れられません。

次年度（じきんだう）に向かって

3月は年度（ねんど）のまとめの時期（じき）であるとともに、4月に入学（にゅうがく）してくる新入生（しんにゅうせい）を迎（むか）えるための様々な準備（じゆんび）をしていく、大切（たいせつ）で大変（たいへん）な時期（じき）でもあります。3月の学校（がっこう）は、何度（なんど）経験（けいけん）してもやっぱり慌（あわ）ただしいのです。

が、特別な活気^{かつき}にあふれる毎日でもあります。卒業生を見送ったと思えば学年末試験、入学予定者説明会、成績の会議、本校を離れる先生方の離任式^{りたいんしき}に修了式^{しゅうりょうしき}。全ての職員で力を合わせ、ひとつひとつに向かっていく熱量^{ねつりょう}を感じます。

今年に入り、先生方に「これからの綾瀬西高校が目指すもの」についてシンプルな言葉と意見をもらいたい、というお願いをしました。ベテランから若手の先生、すべての先生を巻き込んで考えてほしいという願いを込めて、イメージも併せて^{あわ}会議で説明しました。

どんな言葉が出てくるか楽しみにしていましたが、考えてくれたのはとっても素敵^{すてき}で思いのこもった言葉ばかり。報告書^{ほうこくしょ}を読んで、嬉しく^{うれ}くて校長室で思わず声を上げてしまいました。

その中で、私たちのいろいろな思いをまとめ上げている一つを選ばせてもらいました。



「一人ひとりが綾なす学校」～綾瀬西高校は、自分もまわりも大事にする学校です～

「綾なす」とは美しい模様^{ちようよう}を作る、という意味。ご存じ、綾西の校歌の出だしの言葉でもあります。

全ての生徒と職員が学校で過ごす中で作り上げていく、美しい模様。私の中で、イメージがぐわっと広がりました。これを考えてくれたM先生に「先生のアイデアをいただきますね!」と伝えたら、^{こうえい}「光栄です!」と笑顔で返してくれました。これから先生方と生徒たちに伝えていくのが楽しみです。

ある朝、職員玄関に向かって歩いていたら、ちょうど出勤してきたK先生に声を掛けられました。

「校長先生、ちょっと来てください」に従^{したが}って付いていくと、体育館の下をひとり掃除^{そうじ}しているKさんの姿がありました。サッカー部1年のKさんが、毎日掃除をしてくれているとのこと。K先生と二人、「素晴らしいね」「彼はすごいんです」と小声で話しながら、見つめていました。まさに「美しい模様^{ちようよう}」に触れた思いです。

年度末に改めて思うのは、学校という場所が、別れと出会いに満ちた特別な空間^{くわかん}だということです。新しい年度はどんなものになるのでしょうか。色々な思いをもって、希望とともにそれぞれの4月を迎えましょうね。

保護者の皆さま、デイサービスセンターの皆さま、地域の方々、そして本校生徒を支えてくださっている全ての皆さま、おかげさまで綾西も今年度の終わりを迎えようとしています。



本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

3月に入って、以前部活動の顧問^{こもん}をしていた時の生徒たちと久しぶりに食事をする機会がありました。

卒業して早くも10年、当然ですがすっかり立派^{りっぱ}な社会人です。面白いもので、当時のことを話すうちに、あっという間に部員と顧問に戻ります。演劇部^{えんげきぶ}でしたので、「あの大会の舞台^{ぶたい}はこうだった」「先生がこう言ったのが忘れられない」という言葉も飛び出し、笑ったり焦^{あせ}ったり。懐かしいひと時を、大いに楽しみました。

お誘^{さそ}いしたので食事代は私たちが、という言葉や、手土産^{てみやげ}まで用意^{ようい}してくれていた心遣^{こころづか}いに、教師として関わった生徒が素敵^{すてき}な大人になったことと、自分がこの仕事に携^{たずさ}われたことの喜びを、しみじみとかみしめた私です。



霧^{きり}に覆^{おお}われている、雨の翌朝^{よくあさ}の中庭です。

また、お知らせしますね。

